



# 火災事故を起こさない

秋も深まり、空気が冷たく感じられる季節となりました。畜舎でも、ストーブやヒーターの準備をされていると思います。これからの時期は、空気が乾燥し火災が発生しやすいため、今一度、畜舎内を点検する事で火災の防止につながります。

## 火災の発生状況

四季別の出火状況(全火災)を見ると、冬季(12~2月)の損害額が最も大きくなっています(表1)。これは、暖房器具の使用が増える事や空気の乾燥により、火災が広がりやすい状況であるためと考えられます。

畜産現場でも、暖房器具の適切な取り扱いや電気設備の点検など、家畜や畜舎を火災から守るための対策を行う必要があります。

表1.四季別出火状況

	2018年				2017年			
	出火件数(件)	割合(%)	損害額(億円)	割合(%)	出火件数(件)	割合(%)	損害額(億円)	割合(%)
春季(3~5月)	11,022	29.0	222	26.2	11,900	30.2	211	23.6
夏季(6~8月)	9,209	24.2	207	24.5	8,986	22.8	149	16.7
秋季(9~11月)	7,351	19.4	178	21.0	7,370	18.7	143	16.0
冬季(12~2月)	10,399	27.4	239	28.3	11,117	28.2	390	43.7
計	37,981	100.0	846	100.0	39,373	100.0	893	100.0

総務省消防庁「火災統計」(2018年)より作成



火災を発生させないために

### 暖房器具

- 暖房器具の側に乾草、餌袋、木材等の燃えやすいものを置かない
- 暖房器具は消火してから給油・移動する

### 電気設備・配線

- 湿気(雨・結露)により電気設備と配線が被害を受けていないか確認する
- 電気設備にホコリをためない
- 配線が資材や扉に挟まれていないか確認し、ネズミ等の食害による露出をさせない
- タコ足配線による容量超過をしない
- プラグはコンセントにしっかり差し込み、老朽化していないか確認する
- 開閉器(スイッチ)には適切なヒューズを使用する

### 点検・整備

- 定期点検を受けて、漏電の有無を確認する
- 重機や機械の点検を定期的に行う
- 消火器具や防火水槽等の消火設備を点検・整備する
- 家畜の避難方法や避難場所を定める

表2.畜産現場で起こった火災の事例と対策

発生状況	対策
消毒のためオガ粉に石灰(生石灰)を混ぜたところ、石灰がオガ粉の水分と反応、もしくは降雨で湿度が高くなり空気中の水分と反応(推測)して発熱し、火災が発生して堆肥舎が全焼した。	消毒方法の切り替え(石灰混合からホルマリンくん蒸またはグルタルアルデヒド液散布へ)
電気配線の老朽化等による漏電(推測)のため、火災が発生し、豚舎8棟のうち4棟が焼失、豚3,730頭が焼死した。	稼働中の施設の電線の全面更新工事
自動給餌器の配電盤付近での漏電(推測)のため、育成舎の一部が焼けた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①配電盤の自主点検及び清掃</li> <li>②業者による配電盤等の点検</li> <li>③ネズミ対策強化</li> <li>④配電盤の自主点検表作成・運用</li> <li>⑤電気管理技術者協会の点検強化依頼</li> </ul>